



第4章 創造性と活力にみちたまちづくり

～産業経済の振興～

施策の体系

第4章

創造性と活力にみちたまちづくり ~ 産業経済の振興 ~

第1節 農業の活性化と農村環境の保全されたまちづくり

- (1) 安定した農業が営まれるまちにします。
 - 経営に意欲的な担い手を育成します。
 - 効果的な米の需給調整を進めます。
 - 農畜産物の生産を支援します。
 - 自然災害の被害を受けた農業者を支援します。
 - 農業生産の土地基盤を整備します。
 - 地産地消の取り組みを進めます。
 - 農畜産物のブランド化を支援します。
- (2) 優良農地が保全されたまちにします。
 - 農用地を保全します。
 - 農地の効率的な活用を図ります。
- (3) 都市と農村が共存するまちにします。
 - 「農業」を体験できる機会を提供します。
 - 農家・非農家・関係団体等による農業資源の保全を図ります。
 - 都市化により負担が増加する農業用施設の維持管理を支援します。
- (4) 環境に配慮した農業に取り組みまちにします。
 - 環境保全型農業を支援します。
 - 農業用廃材の適正処理を進めます。
- (5) 農村環境を保全します。
 - 農業集落の地域活動を支援します。
 - 農村地域の生活環境を整備します。
 - 森林資源を保全・育成します。

第2節 商工業の振興による活気あるまちづくり

- (1) 地域に密着した商業が育つまちにします。
 - 地域の個性を活かした商業の活性化を図ります。
 - 事業者が共同して行う事業を支援します。
 - 商店街の環境整備を支援します。
 - 大型店の進出により影響を受ける事業者を支援します。
- (2) さまざまな企業の活動が盛んなまちにします。
 - 商工業団体の事業活動を支援します。
 - 中小企業の事業運営を支援します。
- (3) 優良企業が立地するまちにします。
 - 優良企業の立地を支援します。
 - 市内企業の連携を支援します。

第3節 就業機会の充実したまちづくり

- (1) 雇用の安定化が図られたまちにします。
 - 就業情報を提供します。
 - 職業訓練の充実を図ります。

第4節 地域の魅力を活かし多くの人びとが訪れるまちづくり

- (1) 「歴史 自然 文化」の魅力が感じられるまちにします。
 - 観光施設の充実に努めます。
 - 観光団体を支援します。
 - 観光行事の充実に努めます。
 - 地元の名産・伝統工芸品の販売を支援します。
 - 観光案内の充実に努めます。
- (2) 多くの人びとが訪れるまちにします。
 - 多様なメディアを活用した情報発信を行います。
 - 観光施設間の回遊性を高めます。
 - 新たな観光客の誘致について検討します。

第1節 農業の活性化と農村環境の保全されたまちづくり

現況と課題

佐倉市の農業は、大都市近郊という立地条件のもとで、水稻栽培を中心に野菜、花き、畜産等といった都市近郊農業が行われています。

しかし、急激な都市化の進展とともに、農業粗生産額、農業就業者数、農家数、耕地面積などいずれも減少傾向にあり、農業の活力は低下しつつあります。農業は、食料の安定的な供給を担う重要な産業であることから、農業の活性化は緊急の課題です。

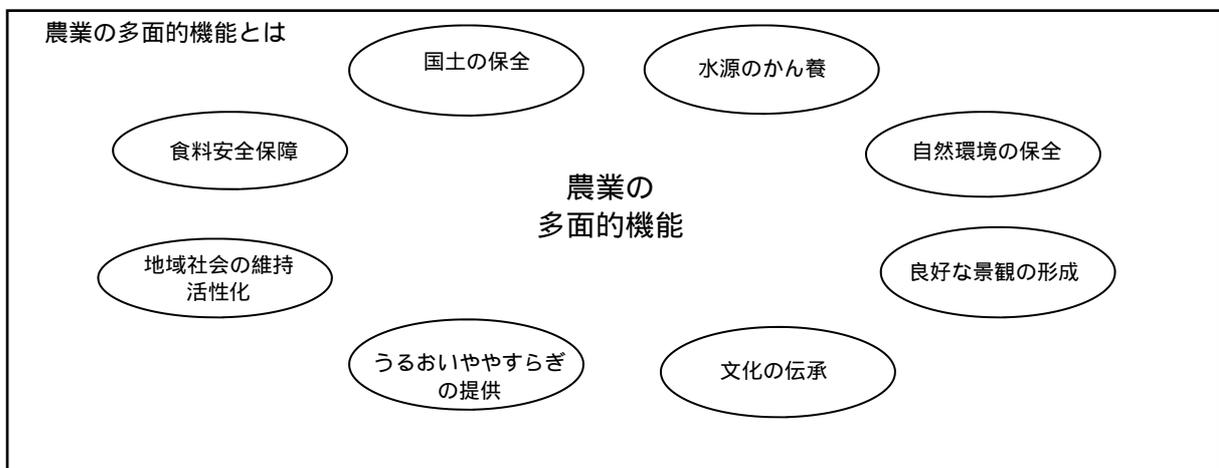
国では「食料・農業・農村基本計画」を策定し、農業を取り巻く情勢の変化への対応や先進国の中でも低い水準にある食料自給率の向上に向けた政策を進めています。

佐倉市においても、農業の維持・発展のため、消費者ニーズに対応した高品質、高付加価値農畜産物の生産などによる経営の安定化と、それを継承する担い手の育成が課題であると考えられます。

一方で、農業や農地は食料を安定的に供給する役割の他にも、自然環境の保全、伝統文化の伝承など、多面的機能を有していることから、生産者と消費者、都市と農村の共生についても、検討すべき課題となっています。

基本方針

- ・農業の活性化を図るため、農作物の生産性の向上や品質の向上、消費者ニーズにあった安全・安心な農作物の生産といった生産者の取り組みを支援し、安定した農業経営を促進します。地産地消を推進し、付加価値の高い生産や産地のブランド化など、経営感覚の向上をめざします。また、農業の維持、発展には後継者の問題によるところが大きいいため、担い手の確保・育成に努めます。
- ・農地は多面的な機能を有していることから、優良農地を保全するとともに、農地の利用集積等による効率的な農地の活用を図ります。
- ・都市化の進展に伴い、農業に対する理解を深めるため、農業体験の機会の提供や農業資源の保全を図るとともに農業用施設の維持管理を支援します。
- ・環境問題に対する関心が高まっているため、環境負荷の低減など環境に配慮した農業への支援を行います。
- ・農村の機能が低下していることから、伝統文化の継承やコミュニティ活動を支援し、また、農地、森林を守るなど農村環境を保全します。



施策の体系

(1) 安定した農業が営まれる
まちにします。

- 経営に意欲的な担い手を育成します。
- 効果的な米の需給調整を進めます。
- 農畜産物の生産を支援します。
- 自然災害の被害を受けた農業者を支援します。
- 農業生産の土地基盤を整備します。
- 地産地消の取り組みを進めます。
- 農畜産物のブランド化を支援します。

(2) 優良農地が保全されたま
ちにします。

- 農用地を保全します。
- 農地の効率的な活用を図ります。

(3) 都市と農村が共存するま
ちにします。

- 「農業」を体験できる機会を提供します。
- 農家・非農家・関係団体等による農業資源の保全を図ります。
- 都市化により負担が増加する農業用施設の維持管理を支援しま
す。

(4) 環境に配慮した農業に取り
組むまちにします。

- 環境保全型農業を支援します。
- 農業用廃材の適正処理を進めます。

(5) 農村環境を保全します。

- 農業集落の地域活動を支援します。
- 農村地域の生活環境を整備します。
- 森林資源を保全・育成します。

施策の説明

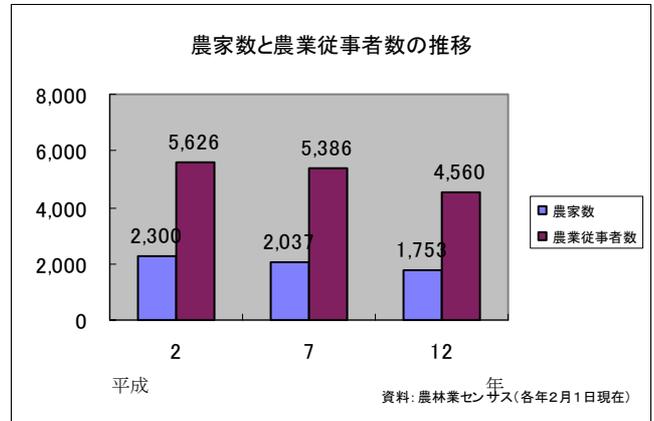
(1) 安定した農業が営まれるまちにします。

① 経営に意欲的な担い手を育成します。

農業者の高齢化や後継者不足が加速化しており、地域農業の担い手の確保が課題となっています。消費者ニーズに対応できる経営感覚のある認定農業者(※1)や集落を基礎とした営農組織の育成など、担い手の確保・育成に努めます。

主な実現方策

- 認定農業者や集落営農者が安定した農業経営を行えるよう支援します。
- 農業後継者の育成に努めます。



② 効果的な米の需給調整を進めます。

水田は本市における全耕地面積の約60%を占めており、農家数の78%を第2種兼業農家(※2)が占めています。国では米政策の事業改革が行われ、平成16年度から生産調整重視から良質米の安定供給など、産地の特性・消費者ニーズに応じた米づくりができるシステムへの転換が方向づけられました。農産物の価格の低迷などにより、農業者の生産意欲が低下しており、佐倉市においても、産地間競争に生き残れるよう「売れる米づくり」に向けた、品質の向上や生産組織強化を図る生産者の取り組みを支援します。

主な実現方策

- 農業者や農業者団体が行う「佐倉市地域水田農業ビジョン(※3)」の実現に向けた取り組みを支援します。

③ 農畜産物の生産を支援します。

輸入農畜産物の増加、産地間競争の激化により農畜産物の価格が低下しており、農業者の経営意欲の低下を引き起こしています。農業者の所得や労働時間の改善を図ることで、職業として農業を営むことができるような環境を整え、地域農業が今後も安定的に営まれるようにすることが必要です。生産コストの低減、付加価値の高い農産物の生産体制を整備し、生産出荷組織の育成強化や集出荷機械施設の整備等、農作物の生産性や品質の向上を図るための取り組みを支援します。

主な実現方策

- 生産者団体や認定農業者に対し、機械施設整備等による生産体制の強化を支援します。
- 畜産防疫対策や家畜改良の推進支援により畜産経営の安定を図ります。



共進会の様子（ホルスタイン）

(※1) 認定農業者 … 認定農業者制度は、平成5年に制定された農業経営基盤強化促進法により、農業者が作成する農業経営の規模拡大、生産方式の合理化等、農業経営の改善を図るための計画（農業経営改善計画）を市町村の基本構想に照らして、市町村長が認定する制度です。他産業並の年間所得と年間労働時間を掲げ、その目標に向かって経営の改善を図ろうとする意欲のある農業者を市が認定農業者として認定し、支援を行っていきます。佐倉市の認定農業者数は57人です。（平成17年5月現在）

(※2) 第2種兼業農家 … 世帯員のなかに兼業従事者が1名以上おり、かつ兼業所得の方が農業所得よりも多い農家。

(※3) 佐倉市地域水田農業ビジョン … 国の「米政策改革大綱」に基づき、佐倉市地域水田農業推進協議会が策定。平成22年度を目標とし、米や転作作物の作付計画、販売計画、担い手の明確化などが示されています。

④自然災害の被害を受けた農業者を支援します。

農業は、自然の影響を最も受けやすい産業です。被害にあった農家が損害を回復するには、大きな負担がかかります。生産の継続が可能となるよう、災害による施設の復旧のための経費に対して補助を行い、被災農家の経営の安定を図ります。

主な実現方策

- 自然災害の被害を受けた農業者の災害復旧等を支援します。

⑤農業生産の土地基盤を整備します。

安定的な農業の発展のためには、農業生産基盤の整備、農業経営の規模拡大、担い手の育成等を通じて、地域の特性を生かした高付加価値型農業を確立することが重要です。良好な営農条件を備えた農地及び農業用水を確保し、農業の生産性の向上を促進するため、農地の整備や用・排水路、用排水ポンプ場など施設の整備や管理についての支援を行います。



ほ場整備された水田

主な実現方策

- 土地改良事業による優良農地の確保を支援します。
- 農業用水基盤整備による農業生産の安定化を図ります。

⑥地産地消の取り組みを進めます。

「地産地消(※4)」は、食に対する安全・安心志向の高まりを背景に、生産者と消費者の距離を縮める取り組みとして注目されています。地元で生産されたものを地元で消費することが、地域の活性化や地域の魅力づくりにもつながります。農産物直売所など「地産地消」に取り組む生産者や関係機関との連携・支援を行うほか、イベントでの地場農畜産物の紹介や学校給食での活用により「地産地消」を推進します。

主な実現方策

- 地場産品のPRや農産物直売所の紹介を行い消費拡大を支援します。
- 農畜産物の生産・販売を支援します。

⑦農畜産物のブランド化を支援します。

輸入農畜産物の増加や地域間競争の激化といった厳しい環境の中で、安定した農業を継続するためには、ただ生産するというだけでなく、消費者ニーズに的確に対応できる農業を行う必要があります。付加価値の高い生産への取り組みや産地ブランド化などへ支援を行い、経営感覚に優れた農業者の育成に努めます。

主な実現方策

- 農畜産物の品質向上を支援します。

(※4) 地産地消 … 「地産地消」とは、「地元生産—地元消費」を略した言葉で、「地元で生産されたものを地元で消費する」という意味で特に農林水産業の分野で使われています。

(2) 優良農地が保全されたまちにします。

①農用地を保全します。

農地は食料供給の場としての機能のほかにも、水源のかん養や防災機能など多面的な機能(※5)を持っています。次世代に農地を健全な姿で受け継いでいくため、効率的で秩序ある土地利用を進め、農地を良好な状態で維持・保全するよう努めます。

主な実現方策

- 農業振興地域整備計画に基づく優良農地の保全を行います。

②農地の効率的な活用を図ります。

農業の持続的な発展のためには、地域の今後の農業経営をどうするかを考え、将来的に地域の農地を耕作していく担い手を育成しながら、農地の利用集積を行う必要があります。耕作されない農地を有効に活用する方法として、農地の貸し借りや農作業の受委託を推進し、農地の効率的な活用を図ります。

主な実現方策

- 農地の利用関係を調整します。
- 農地の利用集積による農業の規模拡大を支援します。

(3) 都市と農村が共存するまちにします。

①「農業」を体験できる機会を提供します。

近年、人々の意識は経済的な豊かさから、心の豊かさを求めるようになっており、ゆとり・健康・自分らしさなどを求める動きが高まっています。都市では見られない景観や自然など、潤いや安らぎのある農村の魅力を活かし、癒しやグリーンセラピーなどの効果を体験できる機会を提供します。また、農業の体験を通じて市民に農業の大切さや収穫の喜びを知ってもらうことにより、農業への理解を促します。



佐倉草ぶえの丘に整備中のバラ園

主な実現方策

- 佐倉草ぶえの丘を農業体験や憩いの場として活用します。
- 市民農園の管理運営を行い、市民が農業を体験できる場を提供します。

②農家・非農家・関係団体等による農業資源の保全を図ります。

農地・農業用水等の資源は、食料の安定供給や豊かな自然環境、地域独自の伝統文化、生物多様性など多面的機能の発揮の基盤となっています。これらの資源の適切な保全管理を行うため、農業者だけでなく、地域住民を含めた多様な参画を得た取り組みを促進します。

主な実現方策

- 農地・農業用水等が良好な状態で将来にわたって継続できるよう、適正な保全管理を推進します。

③都市化により負担が増加する農業用施設の維持管理を支援します。

都市化に伴い雨水排水処理に対する負担が増加しているため、土地改良区が管理する農業水利施設の持つ水源のかん養や洪水防止などの公共・公益的な多面的機能の発揮にかかる経費について支援します。

主な実現方策

- 印旛沼地区において土地改良区が管理する農業水利施設に対し、維持管理の支援をします。

(※5) 農業のもつ多面的機能 … 国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等農村で農業生産活動が行われることにより生ずる食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能。(農林水産省 農林水産関係用語集)

(4) 環境に配慮した農業に取り組むまちにします。

①環境保全型農業を支援します。

環境問題に対する関心が高まっており、農業生産のあり方も環境保全を重視したものに転換することが求められています。環境保全型農業に取り組む農業者への支援や、畜産排せつ物の不適切な処理による悪臭の発生や水質汚染などへの対策を行い、環境負荷の低減を図ります。

主な実現方策

- 化学肥料・農薬使用の低減や土作りなど、環境にやさしい農業を導入するための支援を行います。

②農業用廃材の適正処理を進めます。

農業生産で排出される施設園芸用フィルム及び肥料の袋などの使用済プラスチックによる産業廃棄物が適正に処理されるよう、支援や意識啓発を行います。

主な実現方策

- 農業用廃プラスチック処理の適正処理の支援と農業者への啓発を行います。

(5) 農村環境を保全します。

①農業集落の地域活動を支援します。

近年、農村における過疎化や兼業農家の増加により、地域のコミュニティ機能が低下し、地域の伝統文化の継承や農村環境の保全などにも支障が生じてきています。農村におけるコミュニティ活動の場所を提供するなど地域活動の支援を行い、また、都市化の進展を見据え、都市部住民も取り入れた活動に取り組んでいきます。

主な実現方策

- 農村集会施設など地域活動の場所を提供します。
- 市内で生産された農作物を利用した加工実習や技術の取得を支援します。



農村婦人の家 農産加工室

②農村地域の生活環境を整備します。

農村は多面的機能を持つ農地を中心として成り立っており、その保全に重要な役割を果たしています。農地や水路などの整備と同時に、道路や污水处理施設など、農村の生活環境を保全します。

主な実現方策

- 農業集落の排水処理施設の維持管理を行い、農業用排水の水質保全と生活環境の改善を図ります。



農業集落排水処理施設

③森林資源を保全・育成します。

森林は水源かん養、自然環境の保全、地球温暖化の防止、レクリエーションや教育の場としての利用等のさまざまな機能を果たしています。このような機能を持つ森林資源を保全・育成するため、地域森林計画の推進、市民の森などの活用や植林事業に対する支援を行います。

主な実現方策

- 森林の病虫害被害木の除去や枝打ち、下刈等により、森林機能の保全を行います。
- 市民の森の維持管理を行い、市民の憩いの場として提供します。



市民の森

第2節 商工業の振興による活気あるまちづくり

現況と課題

日本経済は、情報技術革命、少子高齢化、経済のグローバル化等により大きな構造的変化を迎えています。一方、長引く景気の低迷は回復傾向にはありますが、本格的な回復には至っておらず、依然として厳しい状況にあります。その中であって地方自治体は、自立性の高い都市を目指し、商業や工業など地域経済の活性化に向けた取り組みが必要となっています。

佐倉市の商業は、これまで鉄道駅周辺を中心に発展してきましたが、モータリゼーションの進展による郊外型大店舗の進出や消費構造の変化による市外への消費の流出といった、経営環境の変化が続いており、商店街の衰退や空洞化による地域活力の低下が懸念されます。

佐倉市では、平成13年に「中心市街地活性化基本計画」を作成し、商店街の活性化に努めていますが、地域において商店街は商業機能だけでなく、「まちの顔」として地域全体の魅力と深いつながりを持つことから、利便性や快適性といった商業の魅力を高めるとともに、地域の特色を活かした商業の創出が必要となっています。

また、佐倉市の工業は、製造業を中心に、省資源型・無公害型の研究所やエレクトロニクス産業などの先端技術産業が工業団地に集積しています。

これらは内陸の工業団地としては、県内でも有数の出荷額を誇っていますが、産業構造の変化とともに、近年では出荷額が減少傾向にあります。そのため、既存産業の振興とともに優良企業の誘致による工業の振興が期待されます。

基本方針

- ・商業の活性化を図るため、地域の個性を活かした商業の振興に努めます。また、商店街の魅力の向上を図るため、商業者同士が共同して行うイベントを支援します。さらに、安全で快適な商業環境づくりのため、街路灯の維持管理などを支援します。
- ・工業の振興については、市内の企業が連携して行う取り組みへの支援を行うとともに、多様な企業の経営安定化のため、中小企業の資金融資により支援をします。



佐倉第1・第2工業団地周辺



臼井ふるさとにぎわい祭り

施策の体系

- (1) 地域に密着した商業が育つまちにします。
- ① 地域の個性を活かした商業の活性化を図ります。
 - ② 商業者が共同して行う事業を支援します。
 - ③ 商店街の環境整備を支援します。
 - ④ 大型店の進出により影響を受ける商業者を支援します。
- (2) さまざまな企業の活動が盛んなまちにします。
- ① 商工業団体の事業活動を支援します。
 - ② 中小企業の事業運営を支援します。
- (3) 優良企業が立地するまちにします。
- ① 優良企業の立地を支援します。
 - ② 市内企業の連携を支援します。

施策の説明

(1) 地域に密着した商業が育つまちにします。

① 地域の個性を活かした商業の活性化を図ります。

本市の商業は、京成線沿線の志津、ユーカリが丘、臼井、佐倉の各駅及びJR佐倉駅の鉄道駅周辺地区を中心に発展してきました。しかしながら、近年、道路交通網が整備されモータリゼーションの進展により、消費者ニーズの多様化を背景に、近隣に大型店舗が立地していることや東京都内や千葉市、船橋市への通勤通学者が多いこともあり、流出型の消費構造となっています。

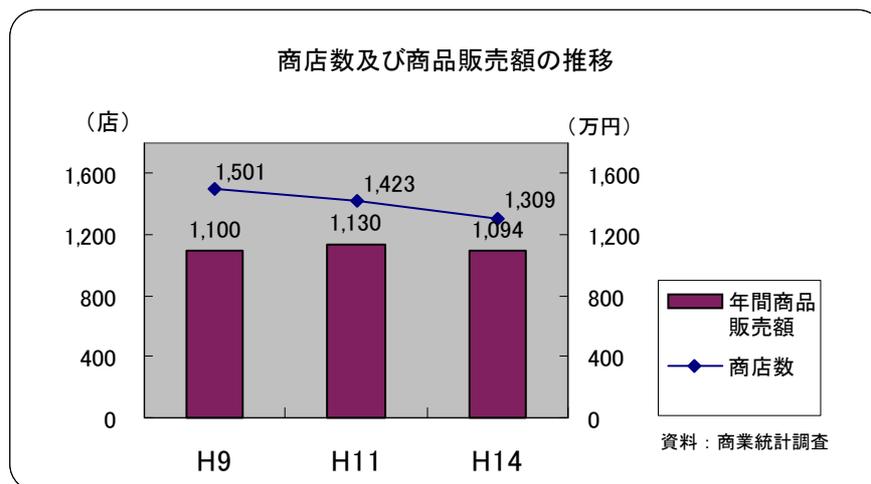
佐倉市では、平成13年に「佐倉市中心市街地活性化基本計画(※5)」を策定し、「中心市街地の整備改善」と「商業等の活性化」を一体的に推進するための事業を実施しています。今後、計画の進捗の把握とその見直しを図り、市内全域の効果的な事業の推進に努めます。

主な実現方策

- 地域の個性を活かし、まちづくりと一体となった商業地の形成を図ります。



「佐倉TMO」空き店舗活用事業
「手づくり工房さくら」



(※5) 佐倉市中心市街地活性化基本計画 … 佐倉市では平成13年度に「佐倉市中心市街地活性化基本計画」を策定し、旧城下町地区を中心とした京成佐倉駅とJR佐倉駅周辺を含む約450haを中心市街地と位置付けました。佐倉商工会議所が中心市街地の商業活性化を総合的にマネジメントするTMO（タウンマネジメント機関）として認定を受け、行政やNPO等と連携して商業活性化事業を実施しています。

②商業者が共同して行う事業を支援します。

本市の商業は、京成線沿線の志津、ユーカリが丘、臼井、佐倉の各駅及びJR佐倉駅の鉄道駅周辺地区を中心に発展してきており、各地区ならではの特色を活かす中で、その魅力の向上を図る必要があります。商店会など地域内の商業者同士が共同して行う独自のイベントなどの事業を支援し、商業の活性化を図ります。

主な実現方策

- 賑わいのあるまちづくりを進めるため、商店会等が開催する商店街活性化事業の支援を行います。



ユーカリフェスタ 2004

③商店街の環境整備を支援します。

安全で快適な魅力ある商店街づくりのため、買い物客の利便性の確保を目的として行う商店会等の施設整備事業を支援します。街の美化と公共の安全に寄与する街路灯などについて、その維持管理に要する経費を支援します。

主な実現方策

- 買い物客や歩行者の安全確保のため、商店街街路灯の維持管理を支援します。

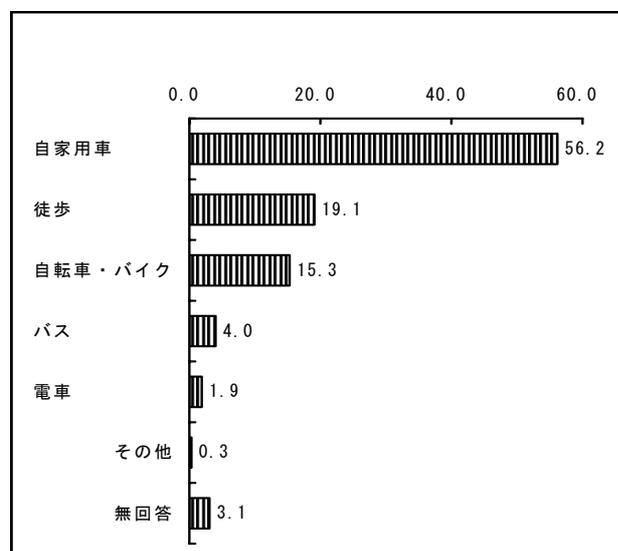
④大型店の進出により影響を受ける商業者を支援します。

大型店の出店による影響は大きく、小規模小売業の減少にもつながりますが、一方で周辺の中小商店にとっては、広域からの集客が見込めるなど吸引施設としてチャンスともなります。それぞれの特徴を活かし共存が可能となるよう、商店の合理化や事業転換を支援します。

主な実現方策

- 大型店対策として行う中小小売業者の業種転換や経営安定を支援します。

日常の買い物に利用する交通手段
(平成16年度市民意識調査) 単位 (%)



(2) さまざまな企業の活動が盛んなまちにします。

①商工業団体の事業活動を支援します。

大企業や製造業を中心に、一部では、景気の回復傾向が見受けられますが、大企業と比較して中小企業の回復力は弱く厳しい状況が続いています。地域経済においては、地元の資源や技術の活用、雇用の場の提供等地元に着した活動を通じて、中小企業は大きな役割を果たしており、経営環境の変化への対応や情報の共有などのネットワークづくりなど、市内の企業が連携して行う取り組みを支援し、地域経済の活性化を図ります。

主な実現方策

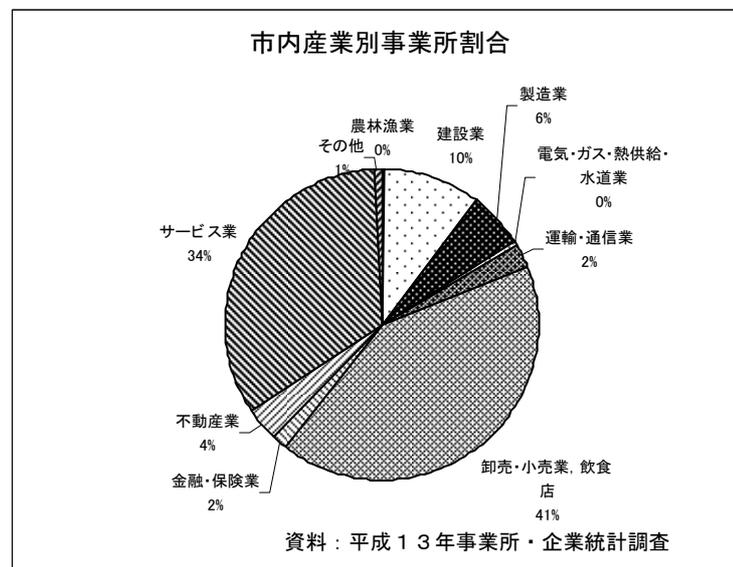
- 市内商工業の活性化に取り組む商工会議所の事業に対して支援し、地域経済の振興を図ります。

②中小企業の事業運営を支援します。

中小企業者は一般的に、事業実績、信用力、担保力などが乏しいため資金調達力が弱く、円滑な資金導入を確保することが課題となります。多様な企業経営の安定を支援し地域経済の活性化を図るため、中小企業の事業資金融資などの事業を行います。

主な実現方策

- 中小企業に対する事業資金の融資等を行い、経営の安定を支援します。
- 国・県の中小企業支援事業の情報提供に努めます。



施策の説明

(3) 優良企業が立地するまちにします。

① 優良企業の立地を支援します。

産業構造の変化などにより、全国的にも工場の新規立地は低い水準で推移しています。こうした製造業の衰退は、地域経済の活力低下の一因となっており、地域の産業の衰退と、地域の雇用の減少にもつながっています。こうした動向を踏まえ、市では優良企業の誘致を行い地域経済の強化を図ります。

主な実現方策

- 先端企業や環境に配慮した企業など優良企業の立地に対して助成を行い、工業の活性化と雇用の確保を図ります。



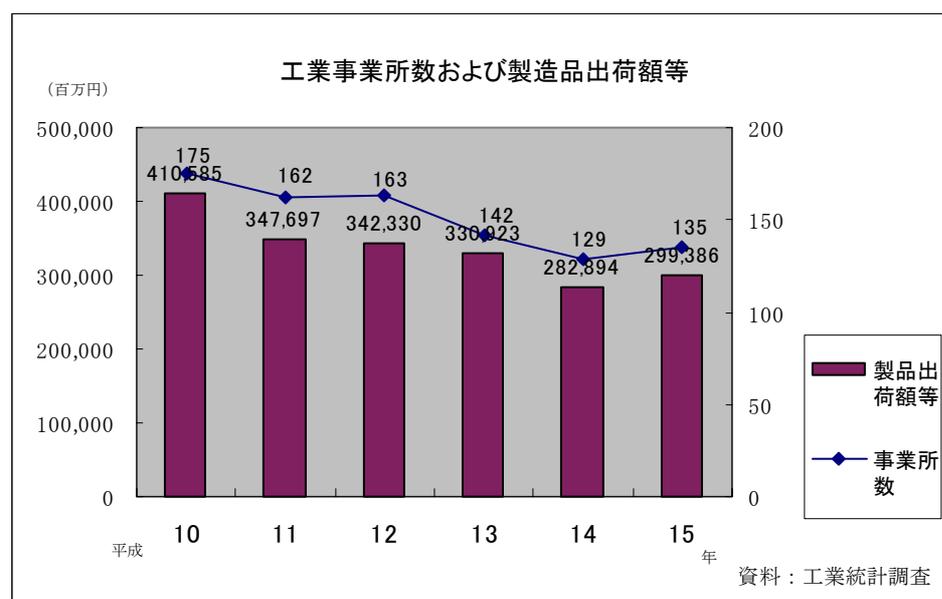
佐倉IC周辺

② 市内企業の連携を支援します。

経済のグローバル化の進展やアジア地域の経済的な急成長に伴い、企業が国や地域を選ぶ時代を迎えています。佐倉市においても既存の工業団地を中心に様々な業種の企業が集積しており、市内企業の振興を図るため、市内の企業情報の整理や情報交流など、企業同士の連携を支援します。

主な実現方策

- 工業団地連絡協議会の事業に対して支援し、工業団地内企業の交流の促進を図ります。



第3節 就業機会の充実したまちづくり

現況と課題

現在の経済社会は、経済の国際化などにより企業間競争は激化しており、それに伴う事業の再構築の影響から、離職を余儀なくされる人も少なくありません。

一方で、長引く景気の低迷による日本経済の不況を受けて、求人が求職に対して不足していましたが、最近では、求人の倍率が増えるなど、以前に比べて持ち直してきた動きも見られます。しかし、失業率は、依然として高い水準を示しており、厳しい雇用状況が続いています。

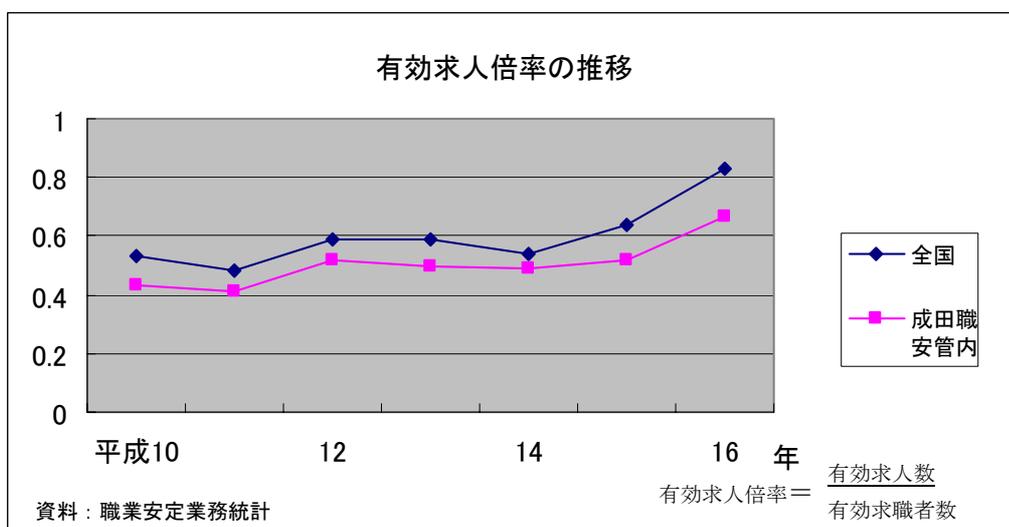
今後は、少子高齢化の進展により、若年層の労働力が大きく減少しますが、一方では高齢者の労働力が大幅に増加してくることが予測されます。さらに、男女共同参画社会の進展によって女性の就業も増加しており、雇用形態の変化も含めて雇用を取り巻く環境は変化し続けています。

また、終身雇用や年功序列賃金の見直しなど、企業の雇用慣行や労働市場の変化が進む中で、職務内容は高度化、専門化しており、求職者の能力開発、技術力の向上といったことも課題となっています。

雇用の安定した地域社会を実現するためには、性別によらず幅広い年齢層に対して就業機会を増やしていくとともに、職業能力等の向上を図るなど、就労に対する支援が必要となっています。

基本方針

- ・雇用の安定した活力ある地域社会を実現するために、求職者に対して雇用機会の情報を提供するとともに、円滑な就業が促進されるよう雇用の相談を行い、求職者に対する就業支援を図ります。
- ・求職者の希望に沿った就業機会が確保されるようにするため、職業訓練校での技能取得や商工会議所でのIT講習会などを支援し、また、雇用に対応した就業支援や人材育成を図り、就業機会の拡充を目指します。



施策の体系

- (1) 雇用の安定化が図られたまちにします。
- ① 就業情報を提供します。
 - ② 職業訓練の充実を図ります。

施策の説明

(1) 雇用の安定化が図られたまちにします。

①就業情報を提供します。

大企業や製造業を中心に、一部では、景気の回復傾向が見受けられ、求人率は、若干上昇傾向にありますが、失業率は依然として高い水準にあり、また、高齢者や女性の就業意欲が高まるなど、勤労者を取り巻く環境が変化しています。就職情報の提供、雇用相談の支援を行い雇用の安定に努めます。

主な実現方策

- 職業相談室、パートサテライトで行う職業相談を支援し、雇用の安定化を図ります。
- 求職者に対する支援制度の情報提供に努めます。

②職業訓練の充実を図ります。

情報化・サービス経済化の中で、労働者に求められる能力はより高度なものとなっており、職業能力の向上が雇用の安定には不可欠なものとなっています。また、若年者を中心としたものづくり離れが進んでおり、職業技能の継承も課題となっています。このため、職業訓練校での技能習得や商工会議所でのITに関する講習会の実施などを支援し、雇用に対応した就業支援や人材育成を図り、就業機会の拡充をめざします。

主な実現方策

- 就労のための技能習得の場を確保し、能力開発を支援します。



佐倉共同高等職業訓練校

第4節 地域の魅力を活かし多くの人びとが訪れるまちづくり

現況と課題

観光は、地域経済の活性化につながる産業として注目され、千葉県でも平成16年に「観光立県ちば推進ビジョン」を作成し、観光戦略を展開しています。

佐倉市においては、印旛沼に代表される自然環境や、武家屋敷、旧堀田邸、佐倉順天堂記念館、井野長割遺跡などの歴史的遺産、さらには、国立歴史民俗博物館や川村記念美術館などの文化施設といった豊富な観光資源を有しています。

また、佐倉市の風物として定着した佐倉チューリップまつりや佐倉・時代まつりなどのイベントは、集客力も高く、市の内外から多くの観光客が訪れています。

さらに、佐倉市は、首都圏から50km圏内に位置しているため、気軽に訪れることのできる観光場所としては、好条件にあります。また、成田空港から約15kmの位置にあり、諸外国の人々も訪れやすい環境にあります。

しかし、佐倉市の観光資源は点在化しており、一つの観光施設を訪れることが多く、滞留時間も長くありません。このことから、観光施設の回遊性の向上と、既存の豊富な観光資源を活かし、内外からの観光客を誘致するための環境づくりが必要です。

さらに、佐倉市では、平成17年にJR佐倉駅前観光情報センターを設置しましたが、観光客誘致のための観光情報の発信についても、重要な課題となっています。

基本方針

- ・地域の力を活かし、多くの人々が訪れるまちをめざして、佐倉市の有する、自然、歴史、文化といった豊富な観光資源の活用を図ります。
- ・観光協会や観光関連団体に対する支援や連携により、観光事業を推進し、観光案内や情報発信など観光客の誘致や観光客の利便性を高めます。
- ・魅力的な観光ネットワークを創出するため、観光施設に回遊性を持たせ、テーマ性のあるルートの提供などを行います。



佐倉・時代まつり



印旛沼湖畔の桜

施策の体系

- (1) 「歴史 自然 文化」の魅力が感じられるまちにします。
- ① 観光施設の充実に努めます。
 - ② 観光団体を支援します。
 - ③ 観光行事の充実に努めます。
 - ④ 地元の名産・伝統工芸品の販売を支援します。
 - ⑤ 観光案内の充実に努めます。
- (2) 多くの人びとが訪れるまちにします。
- ① 多様なメディアを活用した情報発信を行います。
 - ② 観光施設間の回遊性を高めます。
 - ③ 新たな観光客の誘致について検討します。

施策の説明

(1) 「歴史 自然 文化」の魅力が感じられるまちにします。



印旛沼サイクリングロード



佐倉の秋祭り

①観光施設の充実に努めます。

佐倉市は印旛沼をはじめとする豊かな自然に恵まれるとともに、城下町として発展してきた歴史から、佐倉城跡、武家屋敷、旧堀田邸、佐倉順天堂記念館などの歴史的遺産が数多く残されています。このような観光資源を活かし、市内外からの観光客が充実した余暇時間を過ごせるよう、自然、歴史・文化、産業等の特性を活かした観光拠点施設の活用を図ります。

主な実現方策

- 観光拠点施設の活用により来訪者の憩いの場をつくります。



印旛沼サンセットヒルズ

②観光団体を支援します。

観光を地域の活性化や産業の育成に結びつけ、にぎわいあるまちづくりを行うため、観光協会や観光関連団体の支援を行い、連携して観光事業を推進します。

主な実現方策

- 市内の観光事業を推進する佐倉市観光協会を支援します。

③観光行事の充実に努めます。

観光の魅力の向上のためには、人々を惹きつける話題性の高いイベント等を定期的、継続的に開催していく必要があります。四季を感じられるイベントや歴史・文化を感じられるイベントを開催し、市民が余暇を過ごす場所をつくるとともに、佐倉をPRし、佐倉の魅力を知ってもらうきっかけをつくります。

主な実現方策

- 佐倉をPRできる観光イベントの実施により、魅力の向上と経済波及効果を創出します。



佐倉チューリップまつり

④地元の名産・伝統工芸品の販売を支援します。

「買う」「食べる」といった消費行動は観光における大きな魅力となります。また、地元名産品による地域経済への波及と佐倉の知名度の向上に大きな効果があります。組紐、矢、藍染め、竹細工などの伝統工芸品や豊かな風土を利用した名産品などの特色ある物産の販売を支援し、佐倉の魅力向上に努めます。

主な実現方策

- 佐倉の特色ある物産や伝統工芸品のPRを行います。



千葉県指定 伝統工芸品
「下総組紐」



千葉県指定 伝統工芸品
「和弓の矢」

⑤観光案内の充実に努めます。

市内の観光施設は各地に点在していることから、観光案内事業を推進することで、来訪者の利便性と満足度の向上を図ります。京成佐倉駅前観光案内所、JR佐倉駅前観光情報センターなどを有効に活用し、佐倉市の観光に関する様々な情報を発信するとともに、観光案内板等の整備を行います。

主な実現方策

- 来訪者へ観光案内や佐倉のさまざまな情報の発信を行います。
- 観光案内板の設置・維持管理をします。



JR佐倉駅前観光情報センター



佐倉ふるさと広場
「佐蘭花」

施策の説明

(2) 多くの人びとが訪れるまちにします。

① 多様なメディアを活用した情報発信を行います。

市内外からの交流人口を増やし、地域全体の活性化と地域経済への波及効果を高めるためには、佐倉の魅力を積極的にPRする必要があります。より多くの観光客を誘致するため、インターネットや広報紙をはじめ、効果的な媒体を利用し、「行ってみたい」と思わせる情報を発信します。

主な実現方策

- インターネットや観光パンフレット、ビデオなどを活用し、佐倉の観光PRに努めます。

② 観光施設間の回遊性を高めます。

佐倉市を訪問する観光客のほとんどは日帰り客であり、集客力の高い施設やイベントを単独で訪れるケースが大部分を占めています。観光施設間に回遊性をもたせ、滞在時間の増加を図るため、テーマ性のあるルートの提供や観光ボランティアの活用などを図っていきます。

主な実現方策

- テーマのある散策コースの紹介やレンタサイクル事業の支援により、滞在時間の増加を図ります。

③ 新たな観光客の誘致について検討します。

佐倉市は、印旛沼をはじめとする豊かな自然や城下町として発展してきた歴史から多くの観光資源に恵まれるとともに、成田空港や全国的にも集客力の大きい成田山新勝寺に近接した地理条件など、活用できるポテンシャルが多く存在しています。これらの資源を最大限に活用した観光客の誘致について検討します。

主な実現方策

- 新たな観光客誘致のため、観光資源の掘り起こしや売り込みを行います。



国立歴史民俗博物館

